

(様式2)



2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 島田市立神座小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生(10人), 5年生(6人), 全校児童(70人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <b>教科名</b> (4年総合「パラリンピックってなんだろう?」) (4年総合「ゴールボールをやってみよう!」) (5年学活「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう?」) (1~6年学活「ポッチャをやってみよう!」) ② 行事名 ( ) ③ <b>その他</b> (オリンピック・パラリンピックコーナーの設置) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの精神や競技, 選手などを知ることを通して, オリンピック・パラリンピックに対する興味をもたせる。また, 実際に競技を体験してみたり, 触れてみたりすることを通して, オリンピック・パラリンピックの競技を知るとともに, スポーツに対する関心を深める。
5 取組内容	<4年総合「パラリンピックってなんだろう?」> 4年総合の「福祉教育」と関連づけ, 「I'm POSSIBLE」を活用した授業を実践し, パラリンピックやパラリンピックの競技について調べた。   <p>パラリンピックという言葉は知っているが, 競技の内容についてはあまり知らない児童が多かった。しかし, 競技の様子を映像で見ることを通して, さまざまな競技を知ることができた。また, パラリンピックの特徴や発展について学んだことは, パラリンピックに対する興味関心を深めることへとつながっていった。</p>

### <4年総合「ゴールボールをやってみよう！」>

パラリンピックの競技であるゴールボールを体験した。



まず、パラリンピックで行われている試合の映像を視聴した。映像を通して、ゴールボールに対するイメージをつかんだ子供たちからは、「やりたい。」という声が上がってきた。

次に、鈴の入ったボールに触れ、転がす練習に取り組んだ。ボールの感覚をつかんだところで、5対5のゲームを行った。コートの広さやルールについては、子供たちが取り組みやすくなるように、様子を見ながら変えていった。ゲームを始めたばかりの子供たちは、「うまくボールに触れるだろうか。」「ボールが、どこにあるか分かるだろうか。」と不安を感じていた。しかし、だんだん慣れていくと、強く転がそうとしたり、守り方を工夫したりする姿が見られるようになった。

授業を終えた子供たちからは、「楽しい体験ができてよかった。」「またやってみたい。」「見えなくても、楽しむことができるなんてすごい。」という声を聞くことができた。ゴールボールは、どの人も平等に楽しむことができるスポーツだということを、身体を通して学ぶ体験となった。

### <5年学活「パラリンピアン香西選手ってどんな人だろう？」>

「I'm POSSIBLE」を活用した授業の実践として、パラリンピアン香西選手について学んだ。



授業では、導入として、パラリンピアン香西選手の映像を見た。車椅子で力強いプレーを見せる香西選手の様子に、子供たちは驚きの声を上げていた。そして、香西選手のプロフィールを見て、「すごいと思ったところ」と「大変だと思ったところ」に線を引き、考えたことを発表し合った。子供たちは、「ひざから下がないうこと」「早朝から練習すること」「家族と離れての一人暮らし」などが大変そうだと感じていた。しかし、香西選手の口から出てきた一番大変だったことは、「すべて英語で勉強すること」だった。そのことを知った子供たちからは、「勉強が苦手だった香西選手が、すべて英語で勉強することをあきらめなかったのは、車椅子バスケットボールという目標があったからだ。」という考えが出された。さらに、「何か打ち込めるものを見つけることが大切」という香西選手のメッセージも、子供たちに強い印象を残したようで、「ぼくも、香西選手のように一つのことに熱中できる

ようにがんばりたい。」という感想を聞くことができた。また、「香西選手は、勇気と希望を与える人だ。」という意見から、パラリンピックの価値へと学びをつなげることができた。

<1～6年学活「ボッチャをやってみよう！」>  
学年ごとに、ボッチャを体験した。



ルールについては、公式のルールを改良して、子供たちが分かりやすいルールを作った。コートについても、学年の人数や場所によって、広さを変えて取り組んだ。2～6年生は、前年度の体験を通してボッチャの面白さを知っているため、授業が始まる前から楽しみにしている子供が多かった。中には、忘れていた子もいたので、改めてルールを確認してから、ゲームを行った。

ゲームの中では、自分のボールをジャックボールの近くに投げるだけでなく、相手のボールにぶつけてジャックボールから遠ざけたり、仲間に投げる位置を相談したりする姿が見られるようになった。また、4年生と2年生のように、異学年合同で取り組む学年も見られた。その際には、上級生である4年生が、2年生にアドバイスをする姿がたくさん見られた。

体験後は、「もっとやりたかった。」「昼休みにできるといいのになあ。」という声が上がった。ボッチャは、誰もが気軽に楽しむことのできる競技であることを改めて実感することができた。

<全校オリンピック・パラリンピックコーナーの設置>  
オリンピック・パラリンピックコーナーを設置した。



設置場所は図書ホールで、設置内容は、オリンピックやパラリンピックに関する本、競技を紹介する資料、カウントダウンの掲示などである。また、引き続きオリパラ教育コーナーを設置したことにより、オリパラの競技を紹介する資料に目を留めたり、競技に関連する本を借りたりする児童が見られた。

6 主な成果

主な成果として挙げられるのは、以下の二つである。  
一つ目は、スポーツに対する興味・関心の向上につながることができたことである。競技の体験を通して、競技についての理解をより深め、自分たちにもできると実感させることができた。また、競技の面白さを実感したことにより、「もっとやってみたい」という気持ちを高めることもできた。このように、体験を通じた得た実感が、スポーツに対する興味につながっていった。

	<p>また、パラリンピックの競技を体験することにより、誰もが平等に楽しむことができるスポーツだと再認識することができた。子供たちの間で日常行われているサッカーやドッジボールなどにおいては、個人の能力差が大きい。しかし、ボッチャやゴールボールにおいては、どの子にも平等に活躍したり、得点したりする機会があるので、スポーツの楽しさをより実感することができた。</p> <p>二つ目は、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心をより高め、オリンピック・パラリンピックをより身近なものとしてとらえることができたことである。2021年に延期になったことにより、本年度も引き続き、パラリンピックの競技を体験したり、オリンピック・パラリンピックについて学習したりする機会を得ることができた。そのため、子供たちは、オリンピック・パラリンピックの概要にふれた昨年度よりも、さらに濃い体験や深い知識を得ることができた。そして、自分たちにとってより一層身近なものとして、オリンピック・パラリンピックをとらえるとともに、開催への期待を大きく高めることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校であるため、競技を体験する時間をたくさん設定することができた。一人一人が十分に楽しみ、競技の良さを実感することができた。</li> <li>・4年生と2年生は、ボッチャで交流をした。昨年度、十分に体験できなかった2年生に合わせて、4年生がやり方を教えながら、一緒に楽しく交流することができた。</li> <li>・オリンピック・パラリンピックコーナーを設置することにより、全校の児童がオリンピック・パラリンピックにふれることができるようにした。また、オリンピック・パラリンピックに関連する本を展示し、興味を高めるようにした。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具や場所の確保など難しいところはあるが、できる形を工夫しながら、様々なオリンピック・パラリンピック競技を体験させる。ボッチャやゴールボールの体験を重ねることはできたが、さまざまな競技を幅広く体験させることは不十分であった。体験が難しい競技については、競技の映像を見せることも大切である。体験と映像を上手に生かしながら、スポーツに対する興味・関心を高めたり、視野を広げたりしていきたい。</li> <li>・体験したことをふり返りに書いたり、調べたことをまとめたりする時間を十分に確保する。そして、体験したことや学んだことをより確かな足跡として残すことにより、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めていく。また、4年生や5年生のような学びは、他学年に紹介する機会をつくり、子供どうして学び合うきっかけとしたい。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに対する興味・関心をより高めるために、ボッチャやゴールボールの体験を継続する。さらに、その他のオリンピック・パラリンピックの競技についても幅広く体験させたい。</li> <li>・本校卒業生である車椅子バスケットボールの藤本怜央選手が来校予定であったが、コロナウイルスの影響により中止になった。選手の生の声を聴くことは貴重な機会なので、来年度も計画を立て、スポーツへの興味・関心を高める機会としたい。</li> </ul>